

平成4年度 第三学期始業式

明けましておめでとうございます。今年もよろしく申し上げます。

今年のお正月は天気が良くてよかったですね。とはいえ私は、テレビで駅伝ばかり見ていたので、あまり天気は関係ありませんでしたが。

見た人もいると思いますが、今年の箱根駅伝は駒澤大学が優勝しました。2位が中央大学、3位が青山学院大学でした。

テレビやネットでは、駒澤大学の八木監督をほめたたえる声がいっぱいでした。一方、優勝確実と言われていたのに3位に終わった青山学院大学の原監督には手のひらを返したように、「いい気になっていたから勝てなかった」、青山学院の選手にも「根性がない」と批判の声が殺到していました。

こういったことを言う人たちの頭の中では、八木監督は「昭和のオヤジ」で、「根性」や「人情」で生徒を鍛え上げて、スマートだが、ひ弱な青山学院を倒した、というわかりやすい筋書きが出来ているのだろーと思ひます。

しかし私は、駒澤の八木監督は決して「根性」だけではなく、すごく緻密な作戦を立てて大会に臨んでいたと思ひますし、青山学院の原監督も選手たちも、全力で戦っていたと思ひます。では、八木監督はどこがすごかったのでしょうか。このことについては、2位の中央大学の藤原監督が「勝つことだけを考へていた駒澤と、上位に入れればいいと思ひていた自分たちの差だ」と言ひていましたが、まさにそこだと思ひます。

令和に入ってから是非常に強い駒澤大学ですが、平成の中ごろにはなかなかいい成績の出せない時期がありました。八木監督は、この時代にトレーニング法を変え、選手との接し方を工夫し、一生懸命勝つことだけを考へて努力をしたそうす。別に無理な根性や精神論だけで選手を引張ってきたわけではありませぬ。ひたむきに勝つための方法を研究し、実践した成果です。この「勝つまでやる」というところが、八木監督が「昭和のオヤジ」と呼ばれる所以で、すごさなのだろーと思ひます。

現代の私たちは、物事をするときに科学的・合理的にスマートにやろうとしすぎる気がしませぬ。実際に取り掛かる前から、成功の可能性がどれくらいあるかを考へ、無理せずにリスクを避けようと思ひます。先ほどの話でいえば「上位に入れば、いい」という考へです。ですが、これで本当にいいのでしょうか。

今日の日本は、いろいろと困難な状況にあります。特に経済力の衰退による円安・物価高は直接私たちの生活を圧迫するようになってきませぬ。この状況を跳ね返さないと私の老後も心配すし、皆さんも楽しい人生が送れませぬ。そのためには、八木監督の「勝つまでやる」昭和の精神を見習うべきなのではないかと思ひます。